

特別支援教育実践マニュアル

< No. 9 >

～ 「個別の指導計画（短期計画）」の作成と活用 ～

特別支援教育実践マニュアル< No. 9 >をお届けします。
今回特集する「個別の指導計画」は、特別な教育的ニーズの必要な子どもに対して、個に応じた支援を計画的かつ継続的に行うために必要不可欠なものです。
「個別の指導計画」を活用することで、より効果的な支援ができ、子どもたち一人一人の豊かな自己実現を図ることができます。そして、子どもを中心に保護者・教職員がつながり、信頼関係が深まります。子どもに関わる全ての人々が、笑顔になり、元気が出る「個別の指導計画」。効果的に活用して、子どもの力を引き出しましょう。
今号では、その方法を具体的にお伝えします。

「個別の指導計画」を活用すると...



1 子どもへの支援のポイントが明確になります。

発達に遅れや偏りがある子どもは、適応しようと本人なりに努力しています。

[活用すると]

どの場面で誰がどのように支援すると効果的なのが明確になります。



2 教職員間の連携が図りやすくなります。

学校全体で子どもを支援していくことが大切です。

[活用すると]

支援のポイントを整理することで、他の教職員の理解や協力を得やすくなります。



3 保護者との連携が図りやすくなります。

保護者は、担任が積極的な姿勢を示すことで安心します。

[活用すると]

保護者と共に作成し、具体的な対応方法を示すことで、保護者との連携が図りやすくなります。

記入の仕方

ここがポイント!

保護者と一緒に
「子ども理解」を深める
支援の優先順位をつけて実行する
定期的に見直ししながら効果を高める

【保護者の願い】

保護者が、2~3ヵ月間の学校生活に望むことを書きます。
例えば、
・子どもの成長で願うこと
・参加して欲しいこと
・友だちとの関係で願うこと
...こうしたことを担当が予め聞いておき、書き込みます。

【領域区分】

課題となる領域を で囲みます。
上段と下段が同じ領域になっても差し支えありません。

「学習面」とは、教科学習場面で直面している課題を指します。
「生活面」とは、教科学習場面以外で直面する課題を指します。
「社会性」とは、上記二場面の別なく、特に集団生活を送る上で直面する課題を指します。

【子どもの適応状態】

・子どもが好きなこと
・子どもが得意なこと
・子どもが学校生活の中で取り組むことができていること
...こうしたことを具体的に書きます。
子どもが「自分にもできることがある」ということを自覚できるよう、指導していきます。

【見直し予定日】

2~3ヵ月に1回更新します。3学期制の学期末に当たる頃を見直し予定日とします。

の指導計画（短期計画）			月～日 年 月			浦安市 教育研究センター 版（様式2）
氏名	学校名	年（組）	作成年月日	見直し予定年月日	作成者	
(男・女)	浦安市立 学校	()	平成 年 月 日	平成 年 月 日		
子どもの適応状態（できていること）			保護者の願い（聞き取り）			

課題 (つまずいているところ)	目標	支援の形態	手立て	成果と課題 (見直し時に記入)
学習面 ・ 生活面 ・ 社会性				
学習面 ・ 生活面 ・ 社会性				

【目標】

左記の課題に関する目標として、2~3ヵ月で達成可能なことを、1つか2つ想定します。
「～できる」というように、具体的かつ肯定的な表現をします。

【手立て】

「手立て」とは、「ちょっとした工夫」のことです。
・課題の量と難易度
・課題の提示の仕方
・声かけの仕方
・補助教材の活用の仕方
・場面の設定の仕方
...こうしたことを具体的に書きます。

【成果と課題】

「目標」が達成されている場合、それを評価します。

「目標」が特定の条件のもとで達成されている場合（「～のときにはできた」といった場合は、「目標」を継続すべきか、それとも上方修正すべきかを検討します。

「目標」に到達していない場合は、
・「手立て」の方法や頻度が適切であったかどうか検討します。
・「目標」を継続すべきか、それとも下方修正すべきかを検討します。

【課題】

つまずいているところを1つか2つ挙げ、支援のポイントとして絞ります。
できない箇所を網羅する必要はありません。
優先順位を付けて指導に当たります。

【支援の形態】

「誰が」「どの時間に」行うのかを明記します。
確実に指導できる場면을想定しましょう。

小学生の例（抜粋）

個別の指導計画（短期計画）H〇〇年〇月～H〇〇年〇月			浦安市 教育研究センター版（様式2）		
子どもの名前	学校名	学年（組）	作成年月日	見直し予定年月日	作成者
〇〇 〇〇（男）女	浦安市立 △△小学校	3年（2組）	平成 X年 X月 X日	平成 Y年 Y月 Y日	〇〇 〇〇
子どもの適応状態（できていること）			保護者の願い（聞き取り）		
<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習が好きで、自分で熟語を考えるなどして発言している。 理科が好きで、観察や実験に意欲的に取り組んでいる。 頑張って宿題をやってくることで、自信につながっている。 			<ul style="list-style-type: none"> 頑張れば出来る、という経験を積んで欲しい。 身の回りのことについて、言われなくてもすることが増えて欲しい。 		
課題（つまづいているところ）	目標	支援の形態	手立て	成果と課題（見直し時に記入）	
学習面 ・ぼんやりしていて、活動の取りかかりが遅い。 生活面 ・じっくり考えようとせず、すぐに大人に頼ってしまう。 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 一斉指示のときには、していること（例えば板書の写し）をいったん止め、話を聞くことができる。 部分的な手伝いやヒントがあれば、最後は自分で出来たという実感を持つことができる。 	算数と国語の時間 担任と少人数教員	<ul style="list-style-type: none"> 一斉指示だけでは活動に取り掛かることができない場合 <ol style="list-style-type: none"> ①学習の用意を手伝う ②すべき箇所を示す ③本児の体に触れ注意を喚起する クラス全員へ指示や説明をする際 <ol style="list-style-type: none"> ①本児の席の近くでおこなう ②本児の教材を例にとりあげながら具体的なやり方のモデルを示す 	<ul style="list-style-type: none"> 活動への取りかかりが早くなった。 本児の教材を例に取り上げることで、意欲的に取り組むようになった。 また、プリントを折って、取り組む問題以外の刺激を減らす方法が有効であった。 	

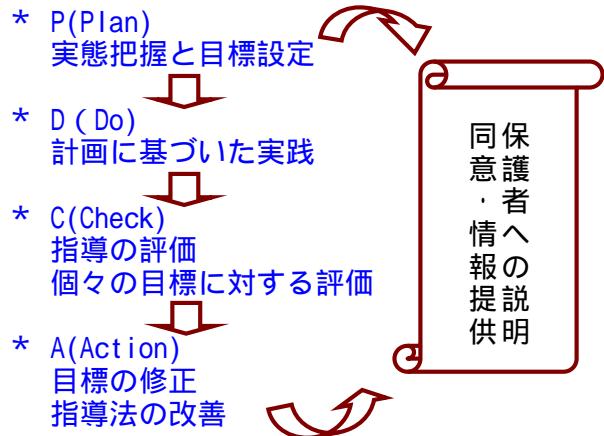
中学生の例（抜粋）

個別の指導計画（短期計画）H〇〇年〇月～H〇〇年〇月			浦安市 教育研究センター版（様式2）		
子どもの名前	学校名	学年（組）	作成年月日	見直し予定年月日	作成者
〇〇 〇〇（男）女	浦安市立 ◇◇中学校	1年（B組）	平成 X年 X月 X日	平成 Y年 Y月 Y日	〇〇 〇〇
子どもの適応状態（できていること）			保護者の願い（聞き取り）		
<ul style="list-style-type: none"> 歴史や地理が好きで、積極的に社会の学習に取り組むことができる。 漢字の知識が豊富である。 責任を持って係り活動を行うことができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 作文が書けるようになって欲しい。 お友達関係のトラブルが減って欲しい。 		
課題（つまづいているところ）	目標	支援の形態	手立て	成果と課題（見直し時に記入）	
学習面 ・ルールを守らない友だちがいると、しつこく注意してトラブルになる。 生活面 ・友だちの冗談を真に受けてしまい、トラブルになる。 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 相手が嫌な気持ちにならないような注意の仕方（回数や言い方）ができるようになる。 嫌な思いをしたときは、担任に訴えることができる。 	学校生活全般 担任と補助教員	<ul style="list-style-type: none"> ルールを守ることは大切なことだということをクラス全員で確認し、本児と以下の約束をする。 <ol style="list-style-type: none"> ①みんなに注意するのは担任 ②友だちへの注意は1回だけ ③注意する声はレベル3の大ききさで（予め声の大ききさを5段階で例示しておく） 激昂したときは、場所を変えて落ち着かせ、本人の訴えを聞き、後で絵や図にして対応方法を教える。 	<ul style="list-style-type: none"> 注意の仕方は改善された。しかし、イライラは解消されないようで、落ち着きがなくなることもある。 嫌なことがあると、担任や補助教員に訴えることが増えてきた。 本人の訴えを聞いた後は、落ち着いて担任の話聞くようになってきた。 	

「プロフィール」と「長期計画」

- * 「個別の指導計画」は、
 - ・ 「プロフィール」
 - ・ 「長期計画」
 - ・ 「短期計画」これで一式です。
- * 「プロフィール」と「長期計画」は1枚のシートになっています。
- * 3年間を通して使用します。小学校下学年用・上学年用・中学校用があります。
- * 「長期計画」は、1年ごとに「長期目標」と「成果と課題」を書き加えて、3年間を見通すことができるようにします。

「作成の手順」



留意点

「子どもの実態」を 保護者と共有するために

- * 保護者には、子どもが学校で頑張っている姿を伝えます。
子どもの「困り感」は、その子なりに適応しようと努力した結果です。
保護者には、子どもの「困り感」を日頃から伝えておきます。
- * その際、必ず担任（学校）としての対応策も一緒に伝えるようにします。

(参照)

- 『特別支援教育実践マニュアルNo.1&2』
- 『特別支援教育実践マニュアルNo.4』

「まずは、この子たちから」

- * 補助教員・支援員が関わっている、個別の支援が必要な児童・生徒
- * 保護者から「個別の指導計画」を作って欲しいと要望があった児童・生徒

「保管の仕方」

- * 個人ごとにファイルを用意し、鍵のかかる場所に保管します。
- * 個人情報なので取り扱いには十分注意し、「個別の指導計画」を用いて情報交換等をする場合、保護者の了承を得ます。

まなびサポート事業

教育研究センター 美浜北小学校内 381-7960・7961

まなびサポート相談室 見明川中学校内 390-5204